

## 福島第一及び福島第二原子力発電所周辺の地質調査結果報告の概要

「総合資源エネルギー調査会 原子力安全・保安部会 耐震・構造設計小委員会 地震・津波、地質・地盤合同ワーキンググループ第4回Aサブグループ会合」において、新潟県中越沖地震を踏まえて福島第一及び第二原子力発電所周辺の陸域及び海域で実施した地質調査結果のうち、活断層評価に関する内容を報告しましたので、お知らせいたします。調査結果の概要は以下の通りです。

### < 海域における調査結果 >

敷地前面海域及び周辺海域で実施した海上音波探査の結果、耐震設計上考慮すべき活断層はないと評価しました。

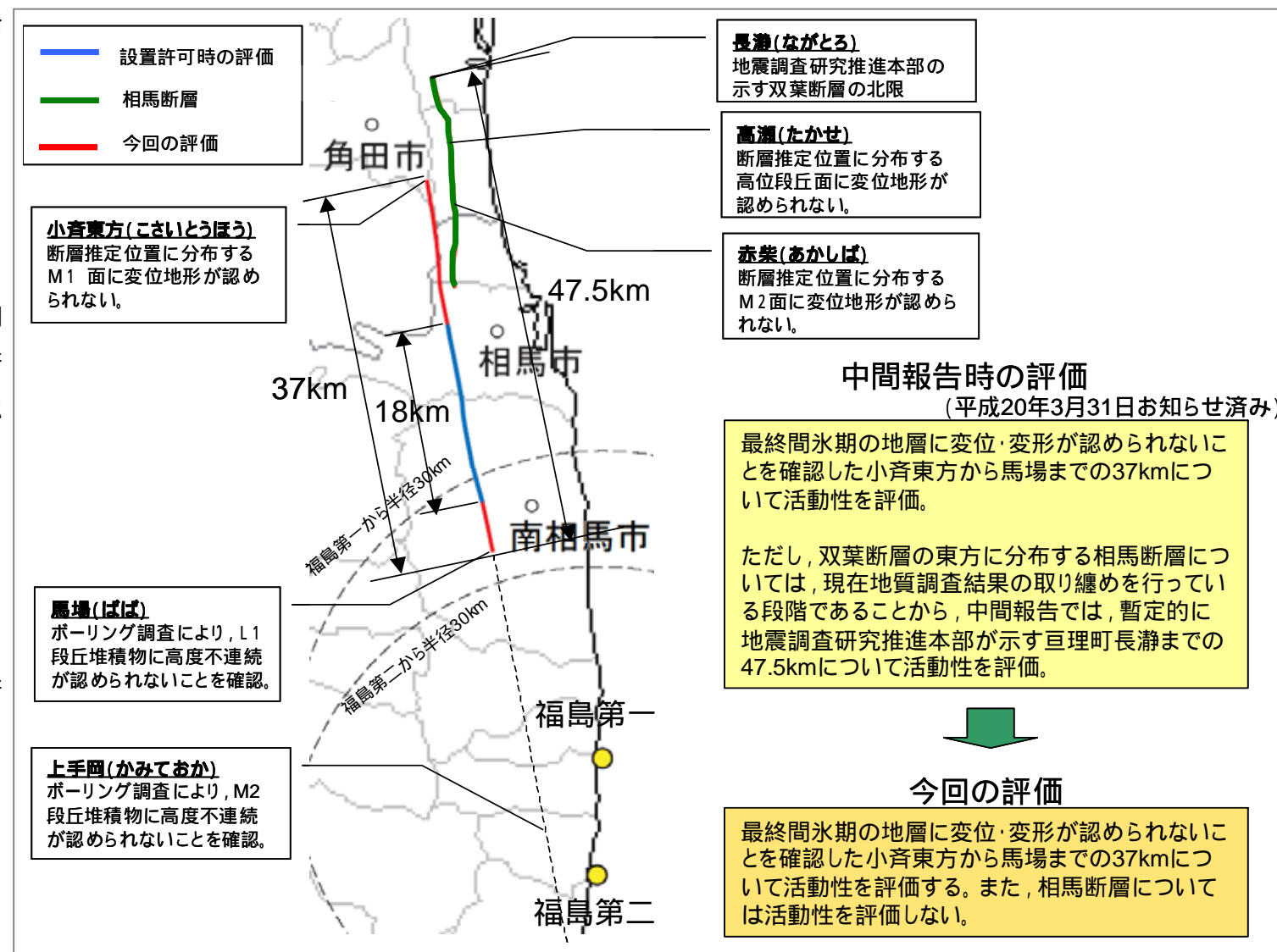
### < 陸域における調査結果 >

文献で示される双葉断層のうち、耐震設計上考慮すべき区間は、丸森町小斉東方から南相馬市原町区馬場までの約 37 km と評価しました。

地震調査研究推進本部が示す双葉断層のうち、北部の巨理町長瀬から初野まで（いわゆる相馬断層）については、変動地形学的調査及び地表地質調査の結果、後期更新世以降の活動が認められないことから、耐震設計上考慮すべき活断層ではないと評価しました。

耐震設計上考慮すべき活断層ではないと評価しました。

富岡町上手岡で実施したボーリング調査及び地震探査の結果、最終間氷期の地層・地形面に断層による変位・変形が認められないこと、これまでの調査により馬場地点以南において最終間氷期の段丘面に変動地形は判読されないことから、馬場以南の双葉断層は耐震設計上考慮すべきものではないと評価しました。



以上

